慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	マンチエスター・ガアーヂアンの欧洲改造雑誌
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.11 (1922. 11) ,p.1625(125)- 1626(126)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19221101-0125

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

餘量又は超過量に依つて決定されるといふのがMukerjee 教授の說である。そこで科學の進步と共に各種の形態のエネルギーは、相互に變形されるに於て愈々容易に愈々散逸漏費を少くするが故、生產過程及生產結果は產業の全分野を通じてエネルギー學の上に立つ基準となる。乃ち一定の生產物は變形されたエネルギーの一定量を代表する譯であるが、此エネルギーの一定量とは自然蓄藏の內から取得された若くは利用し得るやうにされた物質及エネルギーと、求むる變形を行ふに要せられた人間の勞働をも含むエネルギーの消費量との和である。そして此變形されたエネルギーと其れに結合されたエネルギーとの和が、生產物の含むエネルギーの量と等しいことは、潛在エネルギーの運動エネルギーへの變形及其の反對を意味する生產の凡ゆる場合に於て、力學上の方程式に依つて示される。併し生產物をエネルギーの量を以て評價し得ただけでは經濟學の目的は達せられない。經濟學の主題は價値である。

所が實際、力學上の方程式は未だ價値の方程式にはならない。而かも是れ等物理學的方程式の條件中に幾多の經濟現象の基礎を求め得るのである。則ち價値の點に就ても、エネルギーの同値及代替の原理は部分的に經濟價値の同値及代替現象の根底をなして居る。即ち他の事情の等い限り財貨は夫々の生產に充てられたエネルギーの量が等い時代替の原理に支配されて同一の經濟價値を有つ傾向を取るのである。

以上はまだ價値とエネルギーとの關係に關する教授の說を盡したものではなく、又エネルギー關係が價値を決定する唯一のものではなく、唯一のものでないが故に尙ほ此物理學的研究に加へて生物學的心理學的乃至社會學的研究を必要として居るものであるが、要するに謂ふ處は價値論上吾々の第一に據るべき基礎は、正統經濟學派の採る如き慾望滿足の同値及代替の理論、即ちエネルギーの同値及代替の理論の代用物ではなくて、エネルギー關係の理論其のものでなければならぬとするのである。

新刊紹介

マンチエスター ガアーヂアン の歐洲改造雜誌

"Manchester Guardian Commercial" Reconstruction in Europe.

歐洲今日の經濟社會が疲弊のドン底に沈んで居ることは、蔽ふ可からざる事實である。而して其原因は一般に歐洲戰爭に歸せられるが、戰爭の爲めに端を發した經濟的攪亂が今日に至るまで、尙ほ存續するに就ては、關係諸國民の無智であり、短慮であり、互に偏見を以つて、他に對して居ることの與つて力あるは、論を俟たない。宜しく諸國の國情を明にして、自他の理解を求めた上、歐洲の經濟を復興せしめる政策を確立することを必要とすると云ふ考の下に、英國マンチエスター、ガーヂアン紙がジョン・メイナード・キインス氏を主筆として發行したもの、即ち表題に揭げた名稱の雜誌である。本年四月二十日初號を發行し、七月末までに既に第五號を發行して居る。露西亞の經濟狀態とか、海運業の復活とか云ふような特殊の問題に對して、全誌を擧げて居ることもあるが、寧ろ是れは編輯法として、例外のものであつて、普通の場合に於ては、世間並みの雜誌と同じく、キインス氏の論說二三種、內外國人の責任ある寄書、諸外國通信ビジネス、バロメーター等を揭載して居る。現に七月二十七日發行の第五號の如き、歐洲の財政と關稅問題とを記事の二大項目とし、前者に就ては、英のキインス、アスキス、ウエッブ、佛のカイヨー、伊のアイノーヂ、獨のシユローダー、ロッ、等の意見を後者に就ては、英のスタンプ、米のウキリス、獨のシユーマッハー等の意見を收錄し、最後に諸國の經濟的狀勢を示すに足る圖表と統計とが最も簡約された形式で巧に排列されて居る。

即ち本誌は國際經濟を評論し、紹介することを重なる事業とするものであつて、特色は執筆者が堂々たる大家であり、記事が簡約されて居

り、事實の報道が全誌の大半を占めて居る諸點に外ならない。普通の雜誌編輯法に行詰りの趣きある今日、此種の雜誌を得たことは、私の面白く感ずる所である。左るにてもキインス氏がヴエルサイユ講和會議の前後から、著述に、論文に不斷の努力を致しつゝあることに對して、私は遙に敬意を表する。尙ほ英文の外、同時に佛、伊、獨、西の諸國語を以つて、印刷される由であつて、私の配付を受ける英文印刷の分は一部の賣價一志である。（堀江歸一）

川合貞一著　現代哲學への途

定價二圓八十錢
東光閣書店發行

本書に於ける著者の哲學的思索には自から理論的方面に屬するものと實踐的倫理的方面とがある、而して前者に於て主なるものは哲學其者の運命に關する考察と、一時、流行の哲學と稱せられた直觀哲學に對する著者の見解と歷史哲學に關する研究である、次ぎに後者に於て吾人をして興味を感ぜしめたものは「恩の思想」に關する考察である、先づ理論的方面に於て哲學の運命に對する著者の斷案は「哲學なるものは吾々の精神の統一と獨立の要求に深く根ざしてゐるのであるからして、いづれの時にか擡頭し來らざるを得ない、で其の運命には幾多の轉變はあらう、けれども、哲學の時代の全く去つて了うと云ふことは考ふべからざることである」（同書一〇頁）の點に存し、次ぎに著者のベルグソン一派の直觀哲學に對する考察は寧ろ積極的方面よりも之れが消極的價値を認めんとするものである、即ち著者の言を借りて云へば「生の哲學、直觀の哲學、體驗の哲學も畢竟するに反動哲學であつて積極的價値を有するものでないのは云ふ迄もないことである、然しそう云ふ哲學であつても、概念哲學が動もすると空疎な概念の系統に墮するに對して警告となると云ふ點に於て確かに消極的價値を有してゐるのである」（同書八四頁）更に著者の歷史哲學に對する研究は本著にあつては「歷史哲學の問題」と「歷史に對する近代の認識論的考察」の二論文で、實に我邦の學界に於て發表せられた歷史哲學に關する論文中、眞摯なる研究的內容を有する點に於て第一位を占むるものである、殊に著者のショーペンハウエル、ヴインデルバント、リツカートに對する批判的態度は單なる迎合のそれでなくて、之れが學說上の缺陷を充分明にせられて居るのである、尙ほ實踐的倫理的方面に關する論文「恩の思想」中に於て近世社會問題と關係せる點は著者の階級鬪爭其者に對する考察と、所謂、恩の思想と溫情主義との相違である、而して前者に對する著者の見解は「階級鬪爭の思想に依て協戮の目的地に到達しようとするのは、是れ即ち木に緣つて魚を求むるの類であるまいか、自分は協戮の目的地に到達しようと云ふには、どうしても恩の思想に依らなければならないと確く信ずるものである」（同書三四一頁）に存し、後者に對しては「自分は決して一派の人々に依て唱へられて居る、所謂、溫情主義なるものを奉ずるものではない、恩の思想はそれとは似て非なるものである、何故かと云ふと、恩の思想では溫情主義の說くやうに資本家は勞働者に對して恩を被せよと云ふのではない、社會に對し相互に對して共に恩を感ぜよと云ふのであるからである」（同書三四一――三四二頁）而して著者は將來吾人の進む可き目標は社會的鬪爭にあらずして之れが協戮に存すとなし、更に協戮の實現は恩の思想を措いて他に求む可き途なしとなすものである。

之れを要するに著者は本書の卷頭に於て「茲に採錄せられた論文や講演は素より大した客觀的價値のあるものでないと云ふことは何人よりも自分が一番よく之を知つて居る、然しいづれも、自分に取ては、いくらかの產のなやみを經たものであるから、捨てがたいふしがある、本書の成つたのは、一にさう云ふ主觀的價値によるものであると云つてよい」と述べられしに不拘、我等は本書に對して心からの興味を感ずるものである。

今や自然は落葉の秋と化し、我等は我等の心